

提供日 2019/2/9

タイトル 「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」をはじめ開催します

担当 公益財団法人静岡県文化財団 事業課

連絡先 TEL 054(203)5714

静岡県文化財団

記者提供資料

【静岡県文化プログラム 500 日前イベント】

「ふじのくに伝統芸能フェスティバル～わたしがつなぐ、101年後へ～」を開催します！
～地域に根付く民俗芸能について、未来に継承する多様な取り組みと課題を考えます～

1 要旨

公益財団法人静岡県文化財団・グランシップと静岡県文化プログラム推進委員会は、「静岡県文化プログラム 500 日前イベント」として、「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」を開催します。このフェスティバルは、2020 年に向けた文化プログラムとして、2019 年～2020 年の間に 3 回シリーズで開催予定です。第 1 回目は、静岡県をはじめ、日本各地に伝わる民俗芸能の取り組みや未来に継承するための課題と展望を考えるシンポジウムに加え、静岡県や沖縄県の高校生の活動事例紹介を行います。さらに、日本の様々な伝統芸能に影響を与えてきた能楽の世界から、大倉流小鼓方十六世宗家の大倉源次郎さんを迎え、若い世代の取り組み、次世代の育成といった今後の伝承について、ともに考える機会とします。

2 概要

区分	内容
公演名	ふじのくに伝統芸能フェスティバル～わたしがつなぐ、101年後へ～
日時	平成31年3月30日(土) 19:00～21:00
会場	グランシップ 6階交流ホール(静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号)
内容	【第1部】 ○川勝平太静岡県知事挨拶(予定) ○地域と連携した芸能継承事例紹介…松原御船歌保存会(伊東市)実演 ○行政、教育機関、文化施設等が関わりながら芸能を継承する事例紹介…沖縄県立南風原高等学校郷土芸能コース(沖縄県島尻郡南風原町)実演 ○部活動を通しての芸能の継承事例紹介…静岡県立遠江総合高等学校郷土芸能部(周智郡森町)実演 ○シンポジウム <登壇者:大倉源次郎、橋本敬之、井原麗奈> 【第2部】 大倉源次郎氏と櫻間右陣氏による一調一声(演目:三井寺)
実演	松原御船歌保存会(伊東市) 伊東市松原地区で、神社の境内や船上で祝い唄の一種である「御船歌」を伝承している。「若い衆」と呼ばれる青年組織が祭りの主体組織である一方、船の遭難救助や防災活動などにも重要な役割を果たしている。産業構造の変化や少子化など「御船歌」を取りまく環境が時代とともに大きく変わる中で、松原御船歌保存会は芸能の継承方法や祭事の日程などを柔軟に変化させ、地域社会の基盤の一つとして機能しながら、「御船歌」の保存、継承活動を行っている。 沖縄県立南風原高等学校 郷土文化コース(沖縄県島尻郡南風原町) 沖縄県立南風原高等学校は、全国的にも珍しい「郷土文化コース」を25年前に設置。本コースでは、沖縄の歴史や文化を学びながら、三線や琉球舞踊、古武術の実技を通して郷土文化の継承・発展に寄与する生徒の育成を図っている。国立劇場おきなわなどの文化施設や県内の大学と関わり合いながら、先進的な取り組みを行っている。 静岡県立遠江総合高等学校 郷土芸能部(静岡県周智郡森町) 静岡県立遠江総合高等学校郷土芸能部は、森町天宮に伝わる天宮神社十二段舞楽の継承を目的に活動している。この十二段舞楽は、国指定重要無形民俗文化財で、一宮の小國神社の舞楽を左舞、天宮神社を右舞とし、ともに同じ曲を十二曲演じるのが特徴。現在の在籍部員は2名だが、地域の保存会や卒業生の指導のもと、少人数に合わせて舞をアレンジするなど工夫を重ねながら地道に活動を行っている。

シンポジウム 登壇者	<p>大倉源次郎（大倉流小鼓方十六世宗家 重要無形文化財各個指定／人間国宝）</p>  <p>昭和32年、大倉流十五世宗家大倉長十郎の次男として大阪に生まれる。昭和40年、独鼓「鮎之段」にて初舞台。昭和45年、初能「岩船」。昭和60年、能楽小鼓方大倉流十六世宗家になる。（同時に大鼓宗家預かり）平成29年、重要無形文化財各個指定に認定される。 （公社）能楽協会理事、流派を越えて21世紀の能を考える「能楽座」座員。</p>
	<p>橋本敬之（NPO法人伊豆学研究会理事長）</p>  <p>NPO法人伊豆学研究会理事長、公益財団法人江川文庫学芸員、伊豆市文化財保護審議員、伊豆の国市文化財保護審議委員長として、伊豆地域の文化財の保護や利活用、自然環境の保全、まちづくり活動を行い、地域の活性化を図っている。NHK「プラタモリ」案内役を務めた。東京・中日新聞「再発見伊豆学講座」連載中。＜著書・共著＞『幕末の知られざる巨人 江川英龍』（角川SSC新書）、『しずおかの文化17 幕末の産業革命 韮山反射炉～伊豆韮山代官江川太郎左衛門の挑戦～』（しずおかの文化新書）他多数</p>
	<p>井原麗奈（静岡大学地域創造学環准教授）</p>  <p>静岡大学地域創造学環准教授。近代における日本と朝鮮半島の公会堂の設置経緯、運営方法等から文化施設の公共性について研究している。京都芸術センターのアートコーディネーター、神戸大学大学院国際文化学研究科地域連携研究員、ピアノ四重奏団アンサンブル・ラロ、神戸市室内合奏団のマネージャーとしてさまざまな分野の催事のマネジメントに携わってきた。神戸女学院大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。</p>
参加について	<p><u>入場無料</u>（事前申込制・先着順） 【申し込み方法】電話またはグランシップホームページ内のWEBフォームからお申込みください。電話の方は、お名前・住所・電話番号・参加人数をお知らせください。 TEL：グランシップチケットセンター 054-289-9000（10:00～18:30） WEB：https://www.granship.or.jp/entryform/</p>
今後の予定	<p><第2回>2019年9月下旬 グランシップ 中ホール・大地 <第3回>2020年5月下旬 富士宮市民文化会館、富士山本宮浅間大社 他</p>
主催	公益財団法人静岡県文化財団、静岡県文化プログラム推進委員会、静岡県

3 「静岡県文化プログラム」について

オリンピック憲章には、「オリンピズムは、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を追求するもの」と謳われ、開催都市が「文化プログラム」を開催するように定められています。2012年のロンドンオリンピック・パラリンピックでは、開催都市ロンドンだけでなく、イギリス全土で約11万7000件の文化プログラムが行われ、大きな成果を上げたと言われています。2020年の東京大会においても、日本全国で「文化プログラム」が実施されることになっており、静岡県では、県内のさまざまな文化資源を生かしたプログラムが各地で展開されるよう、地域の取り組みを促進し、2020年以降の静岡県の芸術・文化振興に活用可能な仕組み、人材の育成を行う契機として捉えます。

4 取材申込・お問い合わせ

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者：（公財）静岡県文化財団 事業課 電話 054-203-5714 （担当：渡邊・河合）